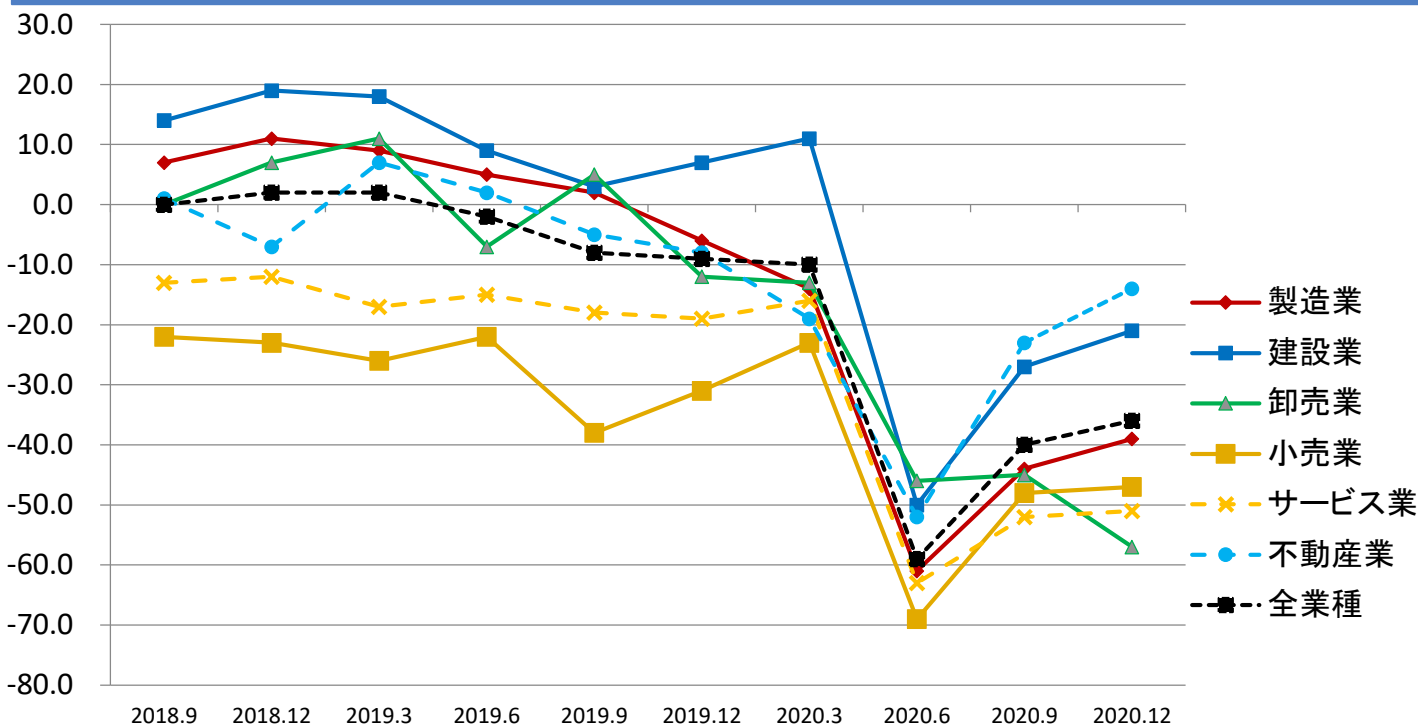


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。
出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.94

2. 業況判断DIの分析

今期の全業種業況DIは前期より19ポイント増のマイナス40となりました。前回は新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みで緊急事態宣言や営業自粛要請、ステイホームなど大幅に経済活動が制限されていましたが、今期はすべての業種に業況の改善が見られました。GO TO イート、GO TO トラベル、GO TO 商店街などの施策により、コロナ前までとは言えませんが徐々に経済が回り始めています。特に変動が大きい業種は不動産業（28ポイント増）や建設業（23ポイント増）です。来期も卸売業を除く5業種で改善の見通しです。

第3波が来ておりますが、年末年始などもあり人が動くきっかけは多く、お金も動く時期になります。

3. 中小企業診断士の一言

コロナ禍も長期戦となり、企業体力も消耗してきています。状況が状況だけに無理に営業を続けず、営業時間を短縮したり、休日を多めに設けることも必要です。製造業など予定が立つ職種であれば、生産量などを前後の日に寄せて休日確保することや、小売などでは予め営業時間や営業日を周知しておくことで利用者の理解を得ることができます。休業には厚生労働省から雇用調整助成金が受給できる場合があります。上手に休業計画を立てて、必要な助成金や補助金はしっかり利用し、このピンチを乗り越えましょう。

4. 主要業界のトレンド

【全体】

GOTOトラベル、GOTOイート、都民割もっとTOKYOなどで活性化しつつある状況でしたが、11月中旬からの第三波の影響でまた経済活動が縮小しつつあります。とはいえ、11月の連休も観光地などは多くの人出で賑わっていますし、都内の観光地もインバウンドを除いては人出が戻りつつあります。海外旅行に行けない人たちが国内旅行に向かうことも期待できます。

【製造業】

自動車業界の持ち直しなどもあり、受注が徐々にではありますがもとに戻りつつあります。非接触をテーマにした製品が多く開発されています。足で操作する自動販売機やタッチパネルに指を近づけると反応するパネルなどです。今までの技術を活用し非接触にまつわる商品開発も考えてみてはいかがでしょうか。

【サービス業】

多くのサービス業が落ち込む中、漫画喫茶などの複合カフェは増収の傾向にあります。テレワークや在宅勤務が多くなる中、自宅では仕事ができない人向けにスペースを開放する企業も出てきています。サテライトオフィスなどに活用できるスペースを貸し出すのも良いかもしれません。

【小売業】

クリスマス商戦、年末商戦に向けて活況となる時期ですが、今年はオンラインでの販売を中心に考えたほうが良いようです。しかし全てがオンラインではなく、電話やメールなどで注文を受けることもよいでしょう。現在使えるものを最大限利用し、対面の機会を少しずつ減らしていくことが重要です。また、そもそも店内が密にならないのであれば、感染症対策を施した上で、通常の対面営業でも感染リスクは低いでしょう。

【建設業】

多くの現場が再開しています。また工期も年末や年度末が多いため、年始から年度末にかけて作業量が増える傾向にあります。今年は感染症対策を万全にして作業する必要があります。従業員の皆様の装備にも留意し、会社で負担できる場所はしっかりフォローすることが重要です。外国人労働者など、年末年始に帰国できない人のフォローも気にかけてあげてください。

5. 小さな企業の新たな取組みのためのヒント

第3波の影響で、休業協力金などを申請する手続きが増えています。福生市では、福生市事業継続応援金として、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、国や東京都または、福生市から各種支援や融資を受けた市内事業者に対し、維持業者あたり10万円を給付しています。また福生市商工会が感染症対策を確認した事業者には5万円を給付しております。国、東京都、福生市とさまざまな機関で支援金、給付金、補助金があります。給付金をどう使うかがアフターコロナに立ち向かえるかの重要なポイントになります。必要な設備投資をしっかりと行いましょう。特に新常態（ニューノーマル）は、今までの世界と一変します。業界ごとにもガイドラインが示され、準拠した営業が求められます。今のうちに自身の事業のガイドラインを確認し、必要な準備に取り掛かりましょう。商工会ではアフターコロナに対応するための相談もお受けしています。